

筑波自転車道整備事業

茨城県土浦土木事務所
 受賞機関 茨城県水戸土木事務所
 茨城県下館土木事務所

はじめに

筑波自転車道は、関東の名峰筑波山の山並みを東側に眺めながら、県西部の岩瀬町から県南部の土浦市間の6市町村を通過する延長約40kmの全国有数の大規模自転車道である。

この自転車道は、地域の足として走っていた筑波鉄道が昭和62年3月に廃止になり、その鉄道敷を利用し整備をした自転車道である。

利用者の健康増進に加え、地域住民の日常生活に



における利便性の向上を図るとともに、遠来からの利用者にとっても、楽しく快適で親しまれる空間づくりを目標に整備を進め、昨年5月に全線の供用をみたところである。

施設概要

路線名：一般県道岩瀬土浦自転車道線

通称：筑波自転車道

愛称：つくばりんりんロード

事業区間：茨城県西茨城郡岩瀬町犬田～土浦市川口

事業期間：平成3年度～平成14年度

延長：L = 40.1km

規格：自転車歩行者専用道路 W = 4.0m

総工事費：80億7千万円



田園風景の中の一直線の自転車道。道沿いに咲く菜の花と筑波山の色と美しいコントラストを見せている。



旧駅舎跡地を利用した休憩所やプラットフォームの形を残した姿は、昔の面影を思い起させる憩いの場として利用されている。

事業の特徴

本自転車道は、鉄道敷の平坦な構造特性をそのまま利用することとしたため、見通しの良い線形で整備することができ、筑波山麓の山並みや、のどかで開放的な田園空間風景のなか、豊かな自然を感じながら距離を退屈せずに安全に走ることができるものとなっている。

整備に当たっては、自転車道本線の整備に合わせて、プラットホームを残すとともに、沿線市町村に1カ所づつ、旧駅舎跡地を利用して駐輪場、駐車場、トイレやベンチ、水飲み場などを備えた休憩施設を設置した。この施設は鉄道が走っていた当時の面影を思い起こさせる憩いの場としても、利用できるよう配慮したものである。

平成14年5月の全線開通後には、廃線跡地利用の優れた事例として、テレビや新聞各社等で広く報道されるなど、その知名度は本県を超えて確実に広まっている。

また、本自転車道がいつでも快適に利用できるように、「道路里親制度」を活用して地域住民団体と行政が協力して清掃美化活動に取り組んでおり、地域住民の手によって新名所へと確実に育ちつつある。

受賞賛助会員 日本鋼弦コンクリート(株)